

【日本語日本文学科】アセスメント・チェックリスト

■達成すべき水準

【DP1】学士力1：知識	知識・理解（人や社会の持つ特性や仕組み、多文化・異文化、文化、社会、自然）
【DP2】学士力2：技能	汎用的技能（発想力、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）
【DP3】学士力3：態度	態度・志向性（先入観の排除、協働しつつ個性を発揮、共感しつつ成長、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力）
【DP4】学士力4：実践力	総合的な学習経験と創造的思考力（多角的な視点から新しいことを生み出す力）
【DP5】専門力1：知識・思考力	日本語、日本文学・文化に関する学習を通して、広い視野を持ち、論理的で柔軟な思考が展開できる。
【DP6】専門力2：表現力	日本語のすぐれた運用能力・技能を身につけ、コミュニケーション力、表現力等を発揮し、社会のさまざまな分野で活躍することができる。
【DP7】専門力3：伝承・発信力	日本語・日本文学を中心に日本の文化についての深い理解と教養を身につけ、社会に向けて発信できるとともに、次の世代にも伝えることができる。

	可視化手段	実施時期・周期	対象	可視化手段の概要	結果の活用方法（PDCA）
1	学修振り返りアンケート	毎年、各学期末	学生	授業科目ごとに実施するアンケート 授業に取り組む姿勢、授業の内容の理解、授業の到達目標の達成度等	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善
2	成績を用いたDP達成度の可視化	毎年、各学期末	学生	科目とDPの対照表を用いて、各学生に対し、DP毎のGPA、学修量を算出するもの	（学修者レベル） 学修改善
3	学生によるDP達成度の自己評価	毎年、各学期末	学生	DPルーブリック（4段階）を基に学生がDPの達成状況の自己評価するもの	（学修者レベル） 学修改善
4	成績分布	毎年、各学期末	学生	GPAの分布、各科目の成績分布、単位取得状況	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善
5	PROG	1年、3年次（希望者のみ）	学生	1年、3年次（希望者のみ）に行う外部テストで、社会で活躍するための汎用的能力を測定するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） PROGとGPAの関係分析 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
6	卒業年次生アンケート	毎年、卒年次	学生	卒業することが決定した学生を対象に実施するアンケート 学修成果として定めている力（学士力・専門力）の達成度、在学期間における成長実感、教育内容および学修環境に対する満足度等	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
7	進路状況調査	毎年、卒年次	学生	卒業生の進路状況	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
8	卒業研究・卒業制作のパフォーマンス評価	毎年、卒年次	学生	各科目成績担当者による評価	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント

【国際コミュニケーション学科】アセスメント・チェックリスト

■達成すべき水準

【DP1】 学士力1：知識

【DP2】 学士力2：技能

【DP3】 学士力3：態度

【DP4】 学士力4：実践力

【DP5】 専門力1：言語運用能力

【DP6】 専門力2：異文化理解と協働力

【DP7】 専門力3：情報活用力

【DP8】 専門力4：生涯学習能力

【DP9】 専門力5：実社会での応用力

知識・理解（人や社会の持つ特性や仕組み、多文化・異文化、文化、社会、自然）

汎用的技能（発想力、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）

態度・志向性（先入観の排除、協働しつつ個性を発揮、共感しつつ成長、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力）

総合的な学習経験と創造的思考力（多角的な視点から新しいことを生み出す力）

日本語に加えて最低一言語の言語能力を一定水準で修得し、多文化共生社会での実践的なコミュニケーションができる。

多様な文化や価値観を理解し、それを論理的に整理し、他者と協働する能力を持つ。

AIやデジタル技術を効果的に活用し、現代社会に適応した新しいコミュニケーションの形を創造できる。

自身の経験を体系化し、生涯にわたり自己開発を続ける姿勢を持つ。

得られた知識やスキルを実社会で応用し、地域社会や国際社会に貢献できる。

	可視化手段	実施時期・周期	対象	可視化手段の概要	結果の活用方法（PDCA）
1	学修振り返りアンケート	毎年、各学期末	学生	授業科目ごとに実施するアンケート 授業に取り組む姿勢、授業の内容の理解、授業の到達目標の達成度等	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善
2	成績を用いたDP達成度の可視化	毎年、各学期末	学生	科目とDPの対照表を用いて、各学生に対し、DP毎のGPA、学修量を算出するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） 各DPと授業科目のバランスの検証 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
3	学生によるDP達成度の自己評価	毎年、各学期末	学生	DPルーブリック（4段階）を基に学生がDPの達成状況の自己評価するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） 各DPと授業科目のバランスの検証 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
4	成績分布	毎年、各学期末	学生	GPAの分布、各科目の成績分布、単位取得状況	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善
5	PROG	1年、3年次（原則全員）	学生	1年、3年次（希望者のみ）に行う外部テストで、社会で活躍するための汎用的能力を測定するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） PROGとGPAの関係分析
6	卒業年次生アンケート	毎年、卒年次	学生	卒業することが決定した学生を対象に実施するアンケート 学修成果として定めている力（学士力・専門力）の達成度、在学期間における成長実感、教育内容および学修環境に対する満足度等	（学科レベル） カリキュラムマネジメント
7	進路状況調査	毎年、卒年次	学生	卒業生の進路状況	学科で独自に、内定企業や決定企業の情報を収集し、指導に役立てる。 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
8	TOEIC	1年、2年、3年次（原則全員） 各学期一回	学生	英語能力を10点から990点で示すもの。リスニングとリーディングのみ	クラス分け、留学指導など
9	国際コミュニケーション学科独自の評価ルーブリックの導入		学生	必ずしも指標（数値化）できない成果についても評価できる方法を開発している	シラバス執筆、授業設計時に活用する。

【子ども教育学科】アセスメント・チェックリスト

■達成すべき水準

【DP1】学士力1：知識	知識・理解（人や社会の持つ特性や仕組み、多文化・異文化、文化、社会、自然）
【DP2】学士力2：技能	汎用的技能（発想力、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）
【DP3】学士力3：態度	態度・志向性（先入観の排除、協働しつつ個性を発揮、共感しつつ成長、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力）
【DP4】学士力4：実践力	総合的な学習経験と創造的思考力（多角的な視点から新しいことを生み出す力）
【DP5】専門力1：思考力・判断力	教育者・保育者として求められる専門的知識および思考力・判断力。
【DP6】専門力2：実践的技能	教育・保育の現場におけるさまざまな課題に対応できる、実践的な技能。
【DP7】専門力3：知識・理解・教養	次代の社会の形成者として必要な、幅広い知識や教養。
【DP8】専門力4：協調性・コミュニケーション能力	教育・保育活動に必要な、他者と協働する力やコミュニケーション能力。

	可視化手段	実施時期・周期	対象	可視化手段の概要	結果の活用方法（PDCA）
1	学修振り返りアンケート	毎年、各学期末	学生	授業科目ごとに実施するアンケート 授業に取り組む姿勢、授業の内容の理解、授業の到達目標の達成度等	学修者の学修改善 授業担当者の授業・指導の改善
2	成績を用いたDP達成度の可視化	毎年、各学期末	学生	科目とDPの対照表を用いて、各学生に対し、DP毎のGPA、学修量を算出するもの	学修者の学修改善 授業担当者の授業・指導の改善
3	学生によるDP達成度の自己評価	毎年、各学期末	学生	DPルーブリック（4段階）を基に学生がDPの達成状況の自己評価するもの	学修者の学修改善 授業担当者の授業・指導の改善
4	成績分布	毎年、各学期末	学生	GPAの分布、各科目の成績分布、単位取得状況	授業担当者の授業・指導の改善 学修者の学修改善
5	PROG	1年、3年次（希望者のみ）	学生	1年、3年次（希望者のみ）に行う外部テストで、社会で活躍するための汎用的能力を測定するもの	学修者の学修改善
6	卒業年次生アンケート	毎年、卒年次	学生	卒業することが決定した学生を対象に実施するアンケート 学修成果として定めている力（学士力・専門力）の達成度、在学期間における成長実感、教育内容および学修環境に対する満足度等	授業・個別指導とその改善
7	進路状況調査	毎年、卒年次	学生	卒業生の進路状況	授業・個別指導とその改善
8	履修カルテ	毎年、各学期末	学生	教職課程履修科目の学修状況を学生自身が記録・管理するもの	各学期の学修者の学修改善、4年次秋学期（8セメ）の「教職実践演習」でこれまでの学修状況の振り返りと就職後の見通しを立てる

【メディア情報学科】アセスメント・チェックリスト

■達成すべき水準

【DP1】 学士力1：知識

【DP2】 学士力2：技能

【DP3】 学士力3：態度

【DP4】 学士力4：実践力

【DP5】 専門力1：メディアリサーチ

【DP6】 専門力2：メディアクリエイション

【DP7】 専門力3：メディアソリューション

【DP8】 専門力4：メディアITスキル

【DP9】 専門力5：メディアキュレーション

【DP10】 専門力6：メディアエデュケーション

知識・理解（人や社会の持つ特性や仕組み、多文化・異文化、文化、社会、自然）

汎用的技能（発想力、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）

態度・志向性（先入観の排除、協働しつつ個性を発揮、共感しつつ成長、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力）

総合的な学習経験と創造的思考力（多角的な視点から新しいことを生み出す力）

メディアに関する深い知識を活かし、文化・社会・情報について幅広く理解し、深く分析することができる。

メディア制作スキルを通じてイメージやアイデアを具現化し、実践的に展開することができる。

メディアに関する知識と制作スキルをともに活かして、総合的なソリューションを提案することができる。

コンピュータに関する知識や技能を情報化社会で活用することができる。

メディア資源の蓄積を活かし、未来の社会を構築することに貢献することができる。

メディアに関する知識やスキルを活かし、情報に関わる教育に貢献することができる。

	可視化手段	実施時期・周期	対象	可視化手段の概要	結果の活用方法（PDCA）
1	学修振り返りアンケート	毎年、各学期末	学生	授業科目ごとに実施するアンケート 授業に取り組む姿勢、授業の内容の理解、授業の到達目標の達成度等	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
2	成績を用いたDP達成度の可視化	毎年、各学期末	学生	科目とDPの対照表を用いて、各学生に対し、DP毎のGPA、学修量を算出するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
3	学生によるDP達成度の自己評価	毎年、各学期末	学生	DPループリック（4段階）を基に学生がDPの達成状況の自己評価するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
4	成績分布	毎年、各学期末	学生	GPAの分布、各科目の成績分布、単位取得状況	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムのマネジメント
5	PROG	1年、3年次（希望者のみ）	学生	1年、3年次（希望者のみ）に行う外部テストで、社会で活躍するための汎用的能力を測定するもの	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） PROGとGPAの関係分析 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
6	卒業年次生アンケート	毎年、卒年次	学生	卒業することが決定した学生を対象に実施するアンケート 学修成果として定めている力（学士力・専門力）の達成度、在学期間における成長実感、教育内容および学修環境に対する満足度等	（学科レベル） カリキュラムマネジメント
7	進路状況調査	毎年、卒年次	学生	卒業生の進路状況	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
8	学修ポートフォリオ	毎年、各学年末	学生	学修成果を学生自身でファイリングしたもの（課外活動を含む）	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント

【生活デザイン学科】アセスメント・チェックリスト

■達成すべき水準

【DP1】 学士力1：知識
【DP2】 学士力2：技能

【DP3】 学士力3：態度

【DP4】 学士力4：実践力

【DP5】 専門力1：課題発見力

【DP6】 専門力2：知識・技能力

【DP7】 専門力3：論理・思考力

【DP8】 専門力4：発想・創出力

【DP9】 専門力5：表現・発信力

【DP10】 専門力6：資格・検定

知識・理解（人や社会の持つ特性や仕組み、多文化・異文化、文化、社会、自然）

汎用的技能（発想力、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）

態度・志向性（先入観の排除、協働しつつ個性を発揮、共感しつつ成長、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力）

総合的な学習経験と創造的思考力（多角的な視点から新しいことを生み出す力）

建築・ファッション・プロダクト・ビジュアルの4つのデザイン領域を横断して学び、デザインと社会の関りを深く読み解きながら、新しく課題を見出すことができる。

表現技能を学ぶ演習科目を通して、直感的なアイデアを試行しながら、柔軟な発想を練り上げることができる。

デザイン知識や理論を学ぶ講義科目を通して、論理的にアイデアを展開し、検証を重ねながら具現化させていくプロセスを計画的に遂行できる。

能動的に学ぶ環境を通して、多様化していく社会において、既存のデザイン領域を超えてフレキシブルに適用し、自らの活躍領域を見出していくことができる。

産学連携・インターンシップ・作品発表など実践的に学ぶデザインプログラムを通して、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を習得し、他人を惹きつける発信ができる。

建築士をはじめ各種資格の受験要件を満たす科目を通して、必要な知識と技能を学修し資格試験に臨むことができる。

	可視化手段	実施時期・周期	対象	可視化手段の概要	結果の活用方法（PDCA）
1	学修振り返りアンケート	毎年、各学期末	学生	授業科目ごとに実施するアンケート 授業に取り組む姿勢、授業の内容の理解、授業の到達目標の達成度等	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） 平均的な授業目的の達成度の検証 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
2	成績を用いたD P達成度の可視化	毎年、各学期末	学生	科目とD Pの対照表を用いて、各学生に対し、D P毎のG P A、学修量を算出するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） 各D Pの平均的な達成度、伸びの検証 （学科レベル） 各D Pと授業科目のバランスの検証 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
3	学生によるDP達成度の自己評価	毎年、各学期末	学生	D Pループリック（4段階）を基に学生がD Pの達成状況の自己評価するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） 各D Pの平均的な達成度、伸びの検証 （学科レベル） 各D Pと授業科目のバランスの検証 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
4	成績分布	毎年、各学期末	学生	GPAの分布、各科目の成績分布、単位取得状況	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） 各科目の成績分布等の検証 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
5	P R O G	1年、3年次（希望者のみ）	学生	1年、3年次（希望者のみ）に行う外部テストで、社会で活躍するための汎用的能力を測定するもの	（学修者レベル） 学修改善 （授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） P R O GとG P Aの関係分析 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
6	卒業年次生アンケート	毎年、卒年次	学生	卒業することが決定した学生を対象に実施するアンケート 学修成果として定めている力（学士力・専門力）の達成度、在学期間における成長実感、教育内容および学修環境に対する満足度等	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
7	進路状況調査	毎年、卒年次	学生	卒業生の進路状況	（授業レベル） 授業、個別指導とその改善 （学科レベル） カリキュラムマネジメント
8	ポートフォリオ	3年次	学生	作品集の制作を行い、表現特性、到達度等を把握する	授業、個別指導とその改善（授業レベル） カリキュラムマネジメント（学科レベル）